建保第二乃秋の比東山院乃念佛よ

九重乃人々男女老幼もゆきて

と書すれ　　

人々々に系て

時しも九月十三夜乃月くまなう

らるゝや有人心歌をとゝみ連歌をして

心とゝまりて遊きとうやまりゝ

ありしい道て乃者ゝとゝをとゝ

てゆくいきるゝ月やゝ山乃陽り

入るとする時乃ゝを乃ゝと雲

乃名殘ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

八雲乃燈立ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

よきゝ秋も人ゝ心乃あとゝ

ゝ水菓のかゝれ世ゝゝゝゝゝゝゝゝ

有合とすゝめきりゝ

車作
左官物
左酒作

右酒作

左油賣

左茶屋

大をとこ女
左るかご
右るかご
左山人

左山人

右浦人

左まこも

右草かり

右ハ久吉

右ハ籠屋

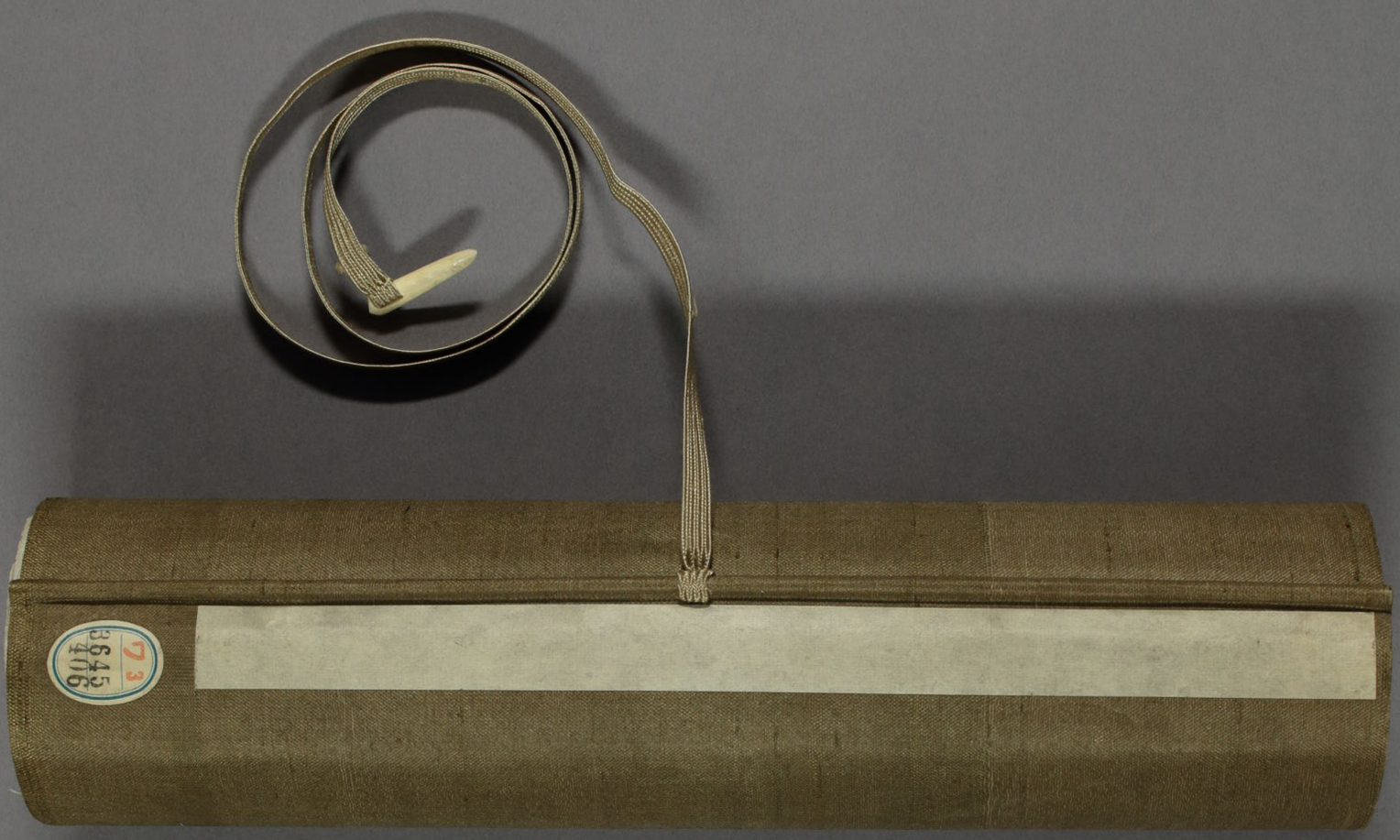
右ハ茅屋

左西山法師入り
左御すいけん
左紙師
左一服一杯

左女
左佛師
左經師

左手紀伯
右貝とり
左絵師
右冠師

寛政十戊午年


73
E645
4106

東北院

建保職人歌合

建保第二乃秋の比東山院乃念佛よ
九重乃人〻男女如花のごとくにて
と書[illegible]みちゝ[illegible]いつこと
人〻〻に系[illegible]
時しも九月十三夜乃月くまなう
[illegible]や有人歌をとゝみあつめて
いとゝきてとうやまはる
[illegible]ひらむ道[illegible]乃者ゝとゝ[illegible]

7保3
3645
402
741

73
3848